

養護教諭養成課程の学生を対象とした保健管理実習における 映像フィードバックシステムの活用効果

Practice of Learner-Centered Classes using Video Feedback System
for the Students in a School-Nurse Training Course

年森敦子 西牧眞里 武井安彦
Atsuko TOSHIMORI Mari NISHIMAKI Yasuhiko TAKEI

鎌倉女子大学
Kamakura Women's University
Email: tosimori@kamakura-u.ac.jp

あらまし：映像フィードバックシステムは、「映像で自分の実技を振り返る」、「授業とリアルタイムで教員と受講者からの評価が得られる」などの機能を有している。鎌倉女子大学では、養護教諭養成課程の学生を対象とした実習授業の中でこの映像フィードバックシステムを利用している。本稿では、本システムを活用した授業の実践から得られた教育効果について、学生の自己評価と教員の評価、学生の相互評価、アンケート結果から報告する。

キーワード：養護教諭養成、映像フィードバック、振り返り学習、可視化

1. はじめに

近年、大学教育においては、新しい社会を創出できる人材の養成が求められ、それに応える形で大学の教育改革が進展する中、認知的、倫理的、社会的な能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成を目的とした多くの研究や実践が行われている。学修者の能動的な学修への参加を取り入れたアクティブラーニングは、授業形態において「学生参加型授業」「協調学習・共同学習」「PBL(Problem-Based Learning)」など、研究の視点や授業の目的によって様々に呼ばれている。

その中で、映像を活用した学生参加型授業の実践および教育効果の検証に係る研究^{(1),(2)}の一環として、鎌倉女子大学では、映像フィードバックシステムを利用し、学生の参加意識、学習意欲向上に繋がる効果的な教授法の検討を継続的に実施している⁽³⁾。

本稿では、今年度の授業実践の内容、得られた効果について報告する。

2. 本演習の目的

「養護活動実習」は、養護活動に必要な知識・技術を習得することを教育目標としている。その中で、身体測定器具の操作は全員が器具の扱いに慣れ、保健指導までを含めた実践的な技術を身につけるために時間がかかる。この点で、実技演習が重要であり、自分の映像を見ることを取り入れることが適していると考えられる。映像フィードバックシステムを取り入れた実技指導は、昨年度から授業に取り入れている。今回は、事前指導として昨年度の映像を予習に取り入れることの効果の検証、学生の主体的・能動的な学びを引き出す教授法の検討を目的とし授業を行った。

3. 実践内容

3.1 映像フィードバックシステムの概要と利用

昨年度と同様、PF-NOTE（株式会社内田洋行・株式会社フォトロン）を用いた。ビデオカメラによる録画と同時に、評価者の手元のクリッカーからの信号をレシーバーで受け記録し、映像と評価者からの内容をPC画面で再生することができる。授業では、学生が身長計測の実技を行う様子を前方1.5mから撮影した。実技を見ている学生は、「良い」または「気になる」と思った瞬間にクリッカーのボタンを押し評価を行った。実施対象は養護教諭養成課程の2年生でAクラス21名、Bクラス22名の合計43名である。50音順で2クラスに分割して授業を行っている。

3.2 演習の目標と教示内容

身長計測の目標および学生への教示は次の内容で行っている。

目標：技術水準に則して正確に測定できる
教示：目標を達する上で、次の5点に留意する。

- (1)両かかとをよくつける
- (2)両かかと・臀部・背の一部が触れた状態
- (3)身体の正中線と尺柱が重なる
- (4)両上肢は体側に垂れさせる
- (5)頭部を正位（眼耳水平位）に保つ

3.3 授業展開

毎回授業は2時限続きで行われている。Aクラスのみ事前学習として、先の授業において、昨年度と同じ演習のフィードバック映像を視聴させた。教科書を用いての身長計測技術と計測にあたっての留意点に関する説明は、2クラスとも同じ内容・方法で行った。2回の授業の流れは、図1のとおりである。



図1 授業の流れ

4. 実施結果と考察

4.1 実技評価とアンケート

実技終了後、自己評価および、映像での振り返り学習への気づきや感想について、択一式と自由記述式のアンケートを実施した。アンケート内容は以下のとおりである。(1)のみ☑形式5点満点自己評価とし、(2)～(5)は自由記述式で行った。

- (1) 身長計測実技自己評価 (5項目)
- (2) 映像を見た後の気づき
- (3) 他者を評価することについて気づきと感想
- (4) 自分への評価を見たことについて気づきと感想
- (5) 事前に画像を見て参考になった点

4.2 結果と考察

自己評価、教員評価およびアンケートから得られた結果と考察について、主なものを以下に述べる。

(1) 自己評価 (5項目) について

y1 (学生の自己評価), y2 (教員の評価), (図2) y3 (学生と教員の一貫度) (図3) とし、平均の差の検定を行ったところ、y1 と y2 について5%の有意水準で2つのクラスに有意な差は認められなかった。

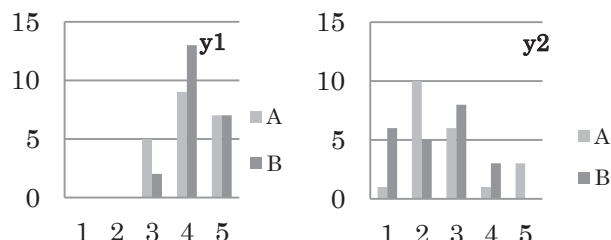


図2 学生の自己評価と教員の評価の分布

一方、評価点数の分布において、事前に映像を視聴していたAクラスの方が、視聴していなかったBクラスと比較して教員評価が高く、自己評価は低い

傾向が見られた。また、一貫度について平均の差の検定を行ったところ、10%の有意水準でAクラスとBクラスでは有意な差が見られた。この結果から、事前学習で映像を見ることにより、学習のポイントと評価のポイントの把握ができていたことと、実技においてその知識が反映され、計測技術習得に効果的であったと考えられる。

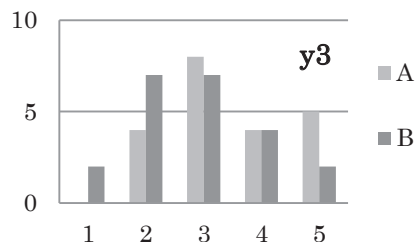


図3 学生の自己評価と教員評価の一貫度

(2) 映像を見た後の気づきについて

映像を見た後の気づきについて、自由記述式の回答をまとめると、表1の結果となった。この回答内容とクラスについて独立性の検定を行ったところ、5%の有意水準で独立でないことがわかった。このことから、実技の自己評価、気づきの観点や気づき内容にクラス差があったと考えられる。

表1 映像視聴後の気づき

回答内容	Aクラス	Bクラス
概要的な気づき	10	5
具体的な技術に関する気づき	1	5
指示に関する気づき	7	7
確認についての気づき	0	7
説明についての気づき	0	3
指導上の気づき	4	6

5. おわりに

養護教諭養成課程の学生を対象とした映像フィードバックシステムを利用した「養護活動実習」の実践内容と結果について報告した。

本システムの効果的な活用について2年間の実践内容を検証し、学生の授業参加意識、意欲向上に効果的な教授法の検討に反映させていく予定である。

参考文献

- (1) 村山光義, 村松憲, 佐々木玲子, 清水静代, 野口和行: "動作映像の即時フィードバックを用いた技術指導の効果", 慶應義塾大学体育研究所紀要, Vol.46, No1, P1-15(2007)
- (2) 武藤健一郎, 佐藤伸一郎, 岩田理, 清水裕: "スポーツにおける映像の即時・系統的フィードバックシステム構築に関する研究", 成蹊大学一般研究報告, Vol.45, No1,(2011)
- (3) 年森敦子, 西牧真里: "映像フィードバックシステムを活用した学生参加型授業の実践および教育効果の検証", 鎌倉女子大学学術研究所所報, Vol.13, P29-33(2013)